

岡山多文化共生政策研究会 第6回 議事概要

日 時 平成 22 年 9 月 28 日 (火) 14:00~16:00
場 所 岡山国際交流センター 4F 交流サロン
出 席 者 岡山大学教員 8 名 岡山市及び総社市職員 (財)岡山県国際交流協会職員
岡山県国際課職員 4 名

○岡山大学 あいさつ

第 5 回の研究会以降、報告書の作成に向け、WGなどで精力的に検討をいただき、原案が出来上がった。研究会の報告書は、大学でも何らかの形で活用させていただきたいし、県や市町村でも施策に反映していただけるものと期待している。

研究会としては、報告書が一つの区切りとなるが、会員の交流は今後とも続けていきたいと考えているのでよろしくをお願いしたい。

○岡山多文化共生政策研究会報告書(案)について(議題1)

●報告書の構成について

はじめに 座長あいさつ

第1 多文化共生を取り巻く現状

- 1 人口減少と少子高齢化社会の進展
- 2 県内在住外国人の状況

(1) 国籍別 (2) 在留資格別 (3) 岡山県の特徴

第2 岡山県在住外国人生活状況調査結果概要

岡山県国際課のホームページに掲載のとおり

第3 岡山多文化共生政策研究会会員の取組状況

会員が現在取り組んでいる事業等について記載する

第4 多文化共生施策の方向性

- 1 コミュニケーション支援
- 2 生活支援
(1) 子育て・教育 (2) 就労 (3) 医療・保健・福祉 (4) 防災 (5) 女性
(6) 留学生

3 多文化共生の地域づくり

第5 民間のいろいろな多文化共生の取組の紹介

第6 まとめ

〈参考資料〉研究会規約、会員名簿、研究会の活動

岡山県国際課から、岡山多文化共生政策研究会報告書(案)について説明し、逐次、質疑応答を行った。

・報告書の体系の説明

法務省の在留外国人統計などの統計資料の分析と「岡山県：岡山県在住外国人生活状況調査（平成22年5月）」結果から、在住外国人の現状と抱える問題を書き出している。

・現状の取組の説明

在住外国人の現状と課題に対して、本研究会の会員が現在取り組んでいる事業を①コミュニケーション支援、②生活支援、③多文化共生の地域づくりに3つの視点に分けて、分かり易く記載している。

・今後の方向性の説明

WGや会員からのご意見をまとめた。留学生支援については、従来の生活支援だけでなく、高度専門人材の活用という新しい視点から記載を行った。

・まとめ

今後求められる施策のうち、主なものを5つまとめとして記載した。

- ①多言語での情報提供
- ②日本語学習支援
- ③相談窓口の連携
- ④多文化共生の意識啓発・人材育成
- ⑤留学生等の人材の活用

※岡山多文化共生政策研究会報告書（案）については、検討中のため公表していない。

●質疑応答

（岡山大学）

・出典が明記されていないところがある。

（岡山県）

・図表については、出典を明記する。

（岡山大学）

・県内の市別の外国人登録者数を追加したらどうか。参照する機会が多いと思う。

（岡山県）

・追加する。

（岡山大学）

・第6「まとめ」の中で、多文化共生を考える上での視点（例：集住地域と散住地域）が書いてあるが、なぜ入れたかの簡単な説明はないのか。

（岡山県）

・集住地域と散住地域の場合でいうと、在住外国人の支援の取組方が違うということだ。集住していれば、行政などの支援も集中しやすいが、散住している地域は、ボランティアの力を借りざるを得ないということだ。

・ほかに「留学生の増加」という言葉は、全国と比較して、県内の留学生が急増しているという状況を示している。

・「行政施策の周知」は、在住外国人生活状況調査結果から、せっかくの行政情報が届いていな

いという指摘があったことだ。

(岡山大学)

- ・視点の説明を入れることで、岡山県の特徴が明確になり、いい報告書になると思うが。

(岡山県)

- ・報告書の体系として、第3「岡山県多文化共生政策研究会会員の取組状況」と第4「多文化共生施策の方向性」の間に、考え方のポイントとなる視点の説明を入れた方がいいのかもしれない。

(岡山大学)

- ・方向性をだす前提として調査結果などから見えてくる視点を提示することは、とてもわかりやすいし、説得力がある。
- ・多文化共生施策の方向性の前段に視点を入れたらどうか。

(岡山県)

- ・了解した。

(岡山県)

- ・第6「まとめ」が全体の要約である。視点を再整理することとしたが、これらの視点から、今後の優先すべき取組を5つ取り上げているが、過不足無いと考えていいか。生活支援の場面、場面での対応の記載がないように感じている。

(岡山大学)

- ・例えば就労支援で相談業務以外、県や市ができるものがあるのか。

(岡山県)

- ・職業紹介はできない。ハローワークとの連携に限られる。

(岡山大学)

- ・生活する上での諸問題も、言語や相談体制の問題に集約している。そこが重要だと思う。
- ・外国人を地域住民として生活の支援をするという視点が入っていればいいのではないか。
- ・個々の施策については、施策の方向性で記載しており、まとめでは、外国人が地域住民として生活する上での、共通要素（視点）を勘案して、優先して取り組むべきものを提案するという形で良いと思う。
- ・優先して取り組むべきものとして「留学生等人材の活用」があるが、これは、今までの取組の方向性としてあまり聞いたことがないものだ。

(岡山県)

- ・留学生が急増していることを背景に、バイリンガルなど能力のある留学生もたくさんいることから、県内企業に就職をしてもらうことで、企業や本県の成長にも役立つということから思いついたものだ。

(岡山大学)

- ・大学としては、ありがたいことだ。

(岡山県)

- ・県全体の発展戦略を考える上でも、留学生等人材の活用はテーマとなってきている。

(岡山大学)

- ・第5「民間の多文化共生の取組の紹介」の取扱はどうか。性格のちがうものが並んでいる

ように思える。

(岡山県)

- ・全てが把握できているわけではなく、今回の報告書から省くこととする。
- ・本日協議いただいた修正箇所を直したものを後日会員の皆様にお配りし、ご意見が無ければ報告書とさせていただきます。

(岡山大学)

- ・報告書については、今年度中には学内や他大学へも配布したいと考えている。

○今後のスケジュール（案）について（議題2）

研究会の報告書については、今回が最終協議とさせていただきますが、今後テーマを決めて研究会を開催したいと考えている。

○その他

(岡山大学)

- ・研究報告書の作成は終わったが、今後とも意見交換の場として継続させていただきたい。
- ・学生に公共政策論の講義を行い、多文化共生の取組を周知できた。
- ・法学部の学生にもボランティアがいる。大学が提供できるのは学生であり、今後とも機会を捉え、活用を考えたい。

○岡山県 閉会あいさつ

研究会の報告書も最後の仕上げにかかっているところだ。現在、おかやま国際化戦略プランの改訂作業を行っているが、多文化共生はプランの中でも大きな柱となっている。研究会の報告書に書き込んだ施策はできるところから取り組むべく来年度予算に反映させたいと考えている。

今後とも会員の皆様と連携して多文化共生に取り組んでいきたいのでよろしくお願いする。

○閉会